

Lecture Series

ジュニアレクチャー

レクチャーシリーズ No.131

＜阪神淡路大震災から20年＞

東日本大震災からの生活文化の復興 —人々の心をつなぐ“語り”と 文化財の役割—

東日本大震災では50カ所をこえる現場で文化財レスキューが行われました。現在、保全作業が終わった文化財を被災地で展示する移動博物館が大学生によって運営されています。

これからの文化財の役割と地域文化の復興について、阪神淡路大震災から20年の日に考えてみましょう。



加藤 幸治 先生

東北学院大学文学部歴史学科
准教授

お 話

津波で町は流されてしまったけれど、人々は思い出を胸に再出発しています。

これからもそこに生きていく人々にとって、もっとも大切な“文化財”は、災害以前にあった日常のくらしのイメージです。

日 時 平成 27 年 1 月 17 日 (土)
10 時 30 分 ~ 12 時 00 分

会 場 京都大学総合博物館
ミューズ・ラボ

終了後、
博物館ロビーにて
東北学院大学の学生に
よる、文化財レスキュー
活動のポスター発表を
実施します。



- 申し込み：不要です。直接博物館へお越しください。
- 対 象：小学生高学年以上(小学生の場合には保護者同伴)
- 参 加 費：無料です。ただし、博物館への入館料は必要です。
一般400円/大学生・高校生300円/中学生・小学生200円
※70歳以上の方、身体障がい者手帳をお持ちの方は無料です。
- 問い合せ：〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学総合博物館 TEL 075-753-3272
ホームページ <http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/>



京都バス「百万遍(ひゃくまんべん)」下車徒歩約1分
京阪電鉄「出町柳(でまちやなぎ)」下車徒歩約15分
※駐車場がありませんので公共交通機関をご利用下さい。

初めての方やお子様でも興味を持っていただける内容となっておりますので、どなたでも気軽にお越しください。

京都・大学ミュージアム連携
University Museum Association of Kyoto

